

## 第8回 松戸市庁舎整備検討委員会 議事録

### 1 開催日時

令和4年11月14日(月)

10時00分から12時00分まで

### 2 開催場所

オンライン会議

### 3 出席者等

#### 【委員：13名】

柳澤 要 委員長  
伊藤 正次 副委員長  
池澤 龍三 委員  
指田 朝久 委員  
藤本 利昭 委員  
藤村 龍至 委員  
石田 尚美 委員  
入江 和彦 委員  
高橋 俊夫 委員  
椎橋 孝幸 委員  
山口 桂明 委員  
関 聡 委員(総務部長)  
大塚 滋 委員(財務部長)

#### 【事務局(関係職員)】

総務部 審議監  
オフィス・サービス創造課 課長  
他6名

#### 【傍聴者：3名】

※うち市議会議員1名、報道関係2名

#### 【欠席委員：1名】

武石 恵美子 委員

### 4 次第

- (1) 開会
- (2) 定数報告及び議題等について
- (3) 公開・非公開、撮影の許可の確認
- (4) 議題1：「フリーアドレスの状況」について
- (5) 議題2：「窓口利用状況調査」について
- (6) 議題3：「庁内ワーキンググループ検討結果」について
- (7) 議題4：「本庁と支所の役割分担(その2)」について
- (8) その他
- (9) 閉会

## 5 議事

### (1) 開会

### (2) 定数報告及び議題等について

- 委員 14 名のうち、1 名欠席のため、13 名が出席。  
委員の過半数が出席しており、本委員会が成立することを確認。
- 前回委員会同様、議事録への署名者は入江委員、椎橋委員の 2 名となった。

### (3) 公開・非公開、撮影の許可の確認

- 本日の委員会は公開となった。
- 委員会冒頭の撮影及び傍聴が許可された。

### (4) 議題 1：「フリーアドレスの状況」について

- 令和元年度に実施した「松戸市新庁舎面積算定業務」の受託者である株式会社イトーキより、フリーアドレスの形態やメリット・デメリット、効果の出やすい職種等について説明。
- (委員) • ハイブリッドアドレスとは、自席を持つ部署と持たない部署があるという理解でよいか。
- (事務局) • 例えば、基本はフリーアドレスにより固定席を必要としないが、週に何日かはプロジェクトのグループで集まる際に固定席を必要とする場合などフリーアドレスと固定席の併用が、ハイブリッドアドレスオフィスである。
- (委員) • A B W (アクティビティ・ベースド・ワーキング) は、基本的には自席が無く、選ぶという理解でよいか。
- (事務局) • その通りである。グループで活動したい時はミーティングのテーブルに行く、個人で集中する場合は集中ブースに行くというように、その時の活動に合わせた場所の選択をして働く。
- 自席もありつつ、選択する場所をオフィスの中に設定するという働き方が、比較的多くなってきている。
- (委員) • フリーアドレスという用語がスペース削減と同義語として使われてしまっているため、定義を明確にした上で議論すべきである。災害対策の観点からすると、有事の際には初期に通信が途絶えてしまうことが非常に多く、職員全員が登庁して業務にあたる必要がある以上、座席数・スペースが足りなくなることは避けるべきだろう。
- (委員) • イトーキにおかれては、フリーアドレスの導入により、オフィススペースの面積はどのように増減したか。
- (事務局) • イトーキのオフィスでは完全な A B W を導入している。働き方によって場所が選べるという環境づくりが必要になるので、その場所で働く社員の 130%

程度の座席は確保している。

- 他方、自席や更衣室・ロッカーをなくす、完全なペーパーレス化により収納をなくす、大人数の会議をウェブに切替える等、座席以外のスペースや運用面でも面積削減についてしっかり考え、取り組んでいる。
- (委員) • 市役所のように個人情報を扱う業務をテレワークにより自宅で行うのは非常に難しい。個人情報を取り扱うためテレワークができない職員がどれだけののか定量的に押さえる必要がある。
- (委員) • クラウドのセキュリティを高めるなど、個人情報や重要機密情報を扱う部署やオフィスがテレワークを行えるような方策はあるのか。或いは現実的には難しいのか。
- (事務局) • パソコンのセキュリティの設定次第である。イトーキに関しては、個人のパソコン自体にデータが保存できず、セキュリティが確保されたクラウド上かつバーチャルデスクトップにアクセスする形であり、セキュリティが何重かにかかった設定になっている。仮にパソコンを紛失しても、パソコン上には機密データが残っていない。
- (委員) • イトーキではテレワークでも問題が無いと理解した。むしろ自席に置いておくよりもセキュリティが高そうである。
- (委員) • 他市の事例は次回審議でよいか。
- (事務局) • 照会中である。回答が出揃い次第、情報提供させていただく。
- (委員) • 市役所の状況に合わせた働き方やオフィススペースについては、類似事例をみながら検討したほうがよい。情報が集まり次第審議を進めたい。

#### (5) 議題2：「窓口利用状況調査」について

- 10月17日に実施した窓口利用状況調査の結果速報について、事務局より説明。
- (委員) • 年代のほか、性別や来庁手段などについても、クロス集計で分析したほうがよいだろう。
- (事務局) • 出来る限り次回委員会でご提示したい。
- (委員) • 庁舎の待合スペースの検討に繋がるため、各課における待合時間を出しておいた方が建築計画上はよいと思われる。
- 複数課をまたがる移動をされた方については、課の組み合わせを分析しておく、レイアウトの検討に活用できるだろう。通常、どの自治体も市民課と国保年金課は隣合わせになっているが、データで実証することができる。また、障がい関係や介護などの部署を分析することは、高齢化社会を見越した対策にもつながるだろう。
- 年代別の傾向は出るはずなので、分析をよくされた方がよいだろう。子育て世代の皆さんは、児童福祉関係の部署に来庁されるとと思われる。
- (委員) • 現在の本庁舎は駅から距離があるが駐車場を利用できるので、車で行きやすいという感覚の方が多く、来庁手段として車が多くなっているのではない

か。駐車場を確保するのが厳しく、減らさざるを得ないのであれば、駅周辺や支所のできる手続き関係を増やすことで、車での来庁が減るのではないか。

- 事業者として市役所に行く場合は複数の課をまたぐことが多いが、個人の方が市役所に行く場合は、そこまで課をまたぐことはなく一か所で済んでいる、といったことがクロス集計の結果で分かるのではと思う。
- 調査時期は保育園の入所手続き案内の配布時期と重なるので、保育園の入所入園担当室に行かれる子育て世代の方が多かったために、30～40代が比較的多かったのではないかと。様々な時期で調査すると、考えられることはたくさんあるだろう。

(委員) • 調査では手続きの時期までは聞いていないが、どの時期に集中するののかも確認したほうが良さそうである。

(事務局) • 来年度以降も交通量調査に合わせて年4回程度実施したいと考えている。転出・転入が多い3月・4月、閑散期の8月、通常期の10月が候補である。

(委員) • 市役所に来る用事の多くは手続き関係である。オンライン化が進み来庁不要の手続きが増えてくと、市役所に来る用事がどの程度減るのかシミュレーションが必要になると思われる。

(委員) • 定期的・単発的な来庁なのか、月末・月初や特定の曜日等いつに集中するののかも分かればよいと思った。

(委員) • マイナンバーカードを持っている場合、来庁不要で出来る手続きがある。逆に、マイナンバーカードを持っていない方や海外の方についての、来庁数や手続き内容も分かればよいと思った。

(委員) • クロス集計をしていただき、分析結果の傾向については次回以降紹介いただきたい。

#### (6) 議題3：「庁内ワーキンググループ検討結果」について

- 庁内ワーキンググループの最終まとめについて、株式会社日本総合研究所より説明。

(委員) • 積極的なICTの利用やテレワークの導入により、多様な働き方を実現したいという、前向きな意思があると感じた。

- 60代以上の方はテレワークにあまり乗り気でないという意見もあり、世代間の格差は気になる。一方で、例えば10年後にアナログに戻ることもないので、上の世代も今後はIT化に対応できるとし、先を見据えて検討することも必要だろう。

(委員) • 「第3の執務拠点」という発想は、今後のファシリティマネジメントにおいて重要な発想である。例えば、学校の空き教室を市の職員のサテライトオフィスとすると、模様替えのコストをそこまでかけずに有効活用できるのと同時に、地域に市の職員が出ていくきっかけにもなり、コミュニティの核づくりに繋がっていくだろう。また、災害時に市の職員が地域にいると心強いネ

ットワークになり、タブレット等から避難所の状況を伝えられるという点からも、有効な手段である。

- 1つのオフィスのあり方だけではなく、地域コミュニティまで考えた大きなファシリティマネジメントの変化になるだろう。まずは若い世代からどんどんやってみる、或いは上司はそれをやらせてみるという、トライ&エラーの風土を松戸市が築かれることを期待したい。他の自治体の事例も大事だが、逆に他の自治体から見習われるように進んでいく方がよいのではないか。
- (事務局)
- 内部で検討し、こういった提案をトライ&エラーでやれる可能性があるれば前向きに取り組みたい。
  - 他方、行政は個人情報を取り扱っているので、バランスをうまくとる必要もある。内部で実証し、できるだけ市民に近いところでサービスが提供できるように考えていきたい。
- (委員)
- セキュリティに関しては、画面をのぞき見されたり、話している内容を聞かれたりすることが問題になる。自宅の中では、家族に聞かれたり、写真を撮って流したりという問題が指摘されている。
  - これらの観点からすると、サテライトオフィスでセキュリティが担保されていれば問題ないと言えるだろう。
- (委員)
- セキュリティの観点からしても、本庁や自宅以外のサードプレイスというのは、積極的に検討する価値があるだろう。

#### (7) 議題4：「本庁と支所の役割分担（その2）」について

- 本庁と支所の望ましい機能配置について、事務局より説明。
- (委員)
- 行政機能や交流機能、一部の災害に関する機能も含めて支所に移管することも検討するという理解でよいか。サテライトオフィスのような考え方で言えば、おそらく支所も一つの拠点になる可能性があるので、検討の余地はあるのではないか。
- (委員)
- 支所にサテライトオフィス機能を持たせるという考え方は、庁内ワーキングでもかなり肯定的な意見が出ていたようである。支所をサテライトオフィスとして活用することへの職員のニーズについて、今後調査や検討をされる予定はあるか。
- (事務局)
- 職員アンケートではサテライトオフィスのニーズについては聞いていない。今後そのような観点からも調査ができるとよいと考えている。
- (委員)
- 支所は老朽化や通信環境等ハード面の課題があると思われる。本庁舎から支所に機能を移管していく際の前提として、インフラ面・ハード面の状況を確認する必要があるだろう。
- (委員)
- 精緻でなくても、支所の状況は情報として持つておくほうがよいだろう。整理していただきたい。
- (委員)
- 現在の本庁で行っている業務の中には、支所で行っている業務も含まれてい

るはずである。今後面積を検討するうえでは、本庁業務と支所業務を分けることが一つのポイントになる。

- (委員)
- 市役所と本庁のあり方で言いたかったのは、行政サービスを受けるために必ずしも市役所に行く必要は無くなってきているということだと理解した。市役所機能がクラウド上で繋がっていて、オンラインで行政サービスを受けるというのが大前提としてあり、他方、窓口に行く必要がある場合は支所に向き本庁とオンラインで連携してサービスを受ける、というイメージを持ち資料化すると、説明に統一感が出るだろう。
  - 説明の統一感という意味では、本庁と支所の役割分担の議論のほか、第3の執務拠点(サードプレイス)というのも考慮してまとめられるとよいだろう。
- (委員)
- 補足的なデータや情報も提供していただきながら、次回以降も審議を継続していきたい。

#### (8) その他

- 次回委員会は12月下旬にオンライン会議で開催。議題は委員長・副委員長と協議の上、決定する。

#### (9) 閉会

以上

第8回 松戸市庁舎整備検討委員会 議事録

令和4年 月 日

議事録署名人 \_\_\_\_\_

議事録署名人 \_\_\_\_\_